

令和2年度 事業報告

理事長 岩崎正日登

社会福祉法人としての使命は「社会、地域における福祉の発展・充実」にあり、社会福祉事業の安定的・継続的経営に努めることが本道である。さらには、多様な福祉課題に柔軟にかつ主体的に取り組むことを旨とし、公益性・公共性の高い法人である。平成29年度は、この主旨をより具体的に実現するために社会福祉法改正がされ施行された。

当法人は既に、2007年より宇都宮市スポーツ広場整備事業の助成を地元自治会と共に受け、住民の健康と体力の向上を図ることを目的とした、無料低額な貸グランド事業を行っている。さらに、栃木県社会福祉法人による「地域における公益的な取組」推進協議会の実施する「いちごハートねっと事業」に加盟して「おこまり福祉相談窓口」を開設し、三拠点に窓口を設けている。その他、サービス向上・地域事業委員会を中心として、ホームタウン宝木において子ども塾・わいわい食堂を地域の二つの医療法人と共に開設し、子どもと家族をささえる居場所をつくり、運営するに至った。

また、栃木県と社会福祉法人経営者協議会が協定を結んで結成された、大規模災害時に高齢者や障害者などを支援する「災害福祉支援チーム（DWAT）」の設置について、法人として協定を結び職員を派遣することとしている。

宇都宮市の実施する総合事業を念頭にした通所介護であるグッドエイジクラブ宇都宮については、近隣の5市からの受け入れを行い、広域的なリハビリディサービスとして浸透を図り、概ね順調に利用者の増加が続いている状況である。また、職員の福利厚生施設としての役割をもっており、休日の日曜日に開館している。さらには、厚生労働省の推進する企業主導型保育事業であるグッドチャイルド保育園を開設して、子どもを育てる職場環境を整えている。

特養宝寿苑については、派遣職員の採用等の経費について削減を目指してきたが、一方で委託費等の経費節減が計画通りには進まなかった。今後、引き続きの収支改善が必要となった。デイサービスについては、地域利用者の支持が高くなり利用者の増加となった。また、ケアプランセンター、訪問看護については収入増加により収支改善を図った。グループホームは支出改善、ヘルパーステーションは収入増加により安定運営に乗せている。

ほそや特養、宝木グループホーム共に収入支出を図り、堅実な運営となっている。

上河内デイサービスについては、収入が伸び悩んでいるが支出の削減により改善傾向となっている。在支は職員増加と支出のバランスが取れずマイナスとなったが、ヘルパーステーションは大幅な利用者増加となり過去最大の収入となった。羽黒については収入が微増であるが、人件費等の適切な措置により経営改善がなされている。グループホーム、小多機については、人件費73%であるが堅実な運営となっている。